



資料②

エコマーク「ホテル・旅館Ver2」 新認定基準の概要



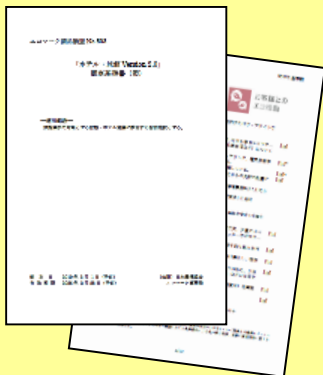
2019年2月

公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局



目次

1. 「ホテル・旅館」認定基準の概要 P. 2~
2. 申込と審査の流れ P.24~
3. エコマーク取得のメリット P.28~
4. 事務局からのご提案 P.36~



詳しくは認定基準書で

<https://www.ecomark.jp/nintei/public/> (2019年2月末まで)

<https://www.ecomark.jp/service/hotel/> (2019年3月以降)



1-1. 見直しの背景と目的

⇒認定基準書1ページ目

2012年10月 エコマーク「ホテル・旅館Ver1」認定基準を制定



2018年 社会の変化に対応するために、認定基準の見直しを検討
2019年3月 Ver2基準を制定予定(申し込み受付開始)

【見直しのポイント】

- 環境に関する**最新の観点**を追加した。
 - 多様な取組を実情に応じて評価するため、必須項目は最低限に絞り、選択項目を多く設ける「**総合評価方式(ポイント制)**」を導入した。
 - 共通の運営手法の**複数施設を一括で審査**することを可能とした。
- ①国連「持続可能な開発目標」(SDGs)、省エネ法 ベンチマーク制度などへの対応や社会的な関心の高い項目が基準に含まれています。
⇒社会のニーズに対応する基準項目は、自社での環境配慮の取組指針となります。
- ②申請時の負担を極力減らしています。
⇒申請書類の作成を減らし、現地確認を中心に審査します。



1-2.適用範囲(申込の対象)

⇒認定基準書1ページ目

お申込みの対象となるのは・・・

“旅館業法”の定義より

①**旅館・ホテル営業** に該当する宿泊施設

②簡易宿所営業 } お申込みの対象外
③下宿営業 }

※民泊もお申込みの対象外

ホテル・旅館施設内の「テナント」は認定範囲外
(賃貸借契約などにより管轄外となる部分)

⇒ 各基準項目への適合は求められない



1-3. 基準の構成と認定要件

⇒ 認定基準書2ページ目

No.	評価カテゴリー	ピクトグラム表示	必須項目数	選択項目数 (最大ポイント数 (p))
1	おもてなしにおける 環境配慮	 お客様との エコ活動	1項目	10項(12p)
2	客室備品・設備の 環境配慮	 エコな備品・ 設備をつかう	0項目	11項(15p)
3	廃棄物削減・ リサイクル	 ごみを減らす	2項目	9項目(12p)
4	省エネルギー	 省エネ	2項目	11項(14p)
5	節水	 節水	2項目	6項目(9p)
6	施設運営における 全般的な環境配慮	 エコな 施設運営	1項目	9項目(12p)
合計			8項目	56項目(74p)
認定 要件	食事の提供を行う施設の場合		必須8項目+選択項目25p以上	
	食事の提供を行わない(またはテナントのみが行う)施設の場合		必須7項目+選択項目21p以上	

1-4(1).おもてなしにおける環境配慮①

⇒認定基準書3ページ目



お客様との
エコ活動

【必須項目】:必ず満たさなければならない項目

■(1)環境配慮の取り組みを館内やウェブで発信



【選択項目】:施設の取り組み状況に応じて選択する項目

■(2)～(4)お客様がエコと感じるサービスの提供

- ✓エコツアー/エコな観光施設
- ✓レンタル自転車/EVスタンド
- ✓環境をテーマとした催し物 など

■(5)食材の環境配慮



- ✓有機農産物
- ✓海のエコラベル
- ✓地産地消 など



■(6)食品ロス削減のために・・・

- ✓食器の工夫
- ✓少量メニュー
- ✓ステッカーによる啓発 など

1-4(1).おもてなしにおける環境配慮②

⇒認定基準書3ページ目

【選択項目】 つづき

■(7)アメニティの廃棄削減を促すサービス
歯ブラシ持参で粗品進呈 など



■(8)(9)客室における省エネ・節水
✓電気ポット・冷蔵庫の電源をチェックイン前はOFF
✓「水を大切に・・・」のステッカー など

■(10)共有スペース、バックスペースの全面禁煙 &
禁煙客室が80%以上



パリ協定



1-4(2).客室備品・設備の環境配慮①

⇒認定基準書4ページ目



エコな備品・
設備をつかう

【必須項目】

■なし

【選択項目】

■(12)～(14)客室備品による廃棄物削減

- ✓詰替えディスペンサー
- ✓使い捨てないスリッパ
- ✓ごみを分別できるごみ箱の使用





1-4(2).客室備品・設備の環境配慮②

⇒認定基準書4ページ目

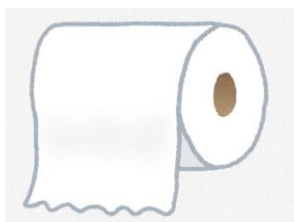
【選択項目】つづき (*基準書の脚注に具体例)

■(15)～(20)客室備品による省エネ・節水

- ✓個別空調の設置
- ✓退室時に鍵を抜くと電源が切れる装置
- ✓省エネ型のTVや冷蔵庫 など
- ✓夏期に暖房便座の暖房機能停止
- ✓節水型水栓/シャワー/トイレ*
- ✓バスタブに適正な水位の表示 など



■(21)客室備品にエコマーク商品などのエコ製品*の使用 トイレットペーパー、文具、食器、小物入れ、リネン類など



SDGs
との関連



パリ協定



1-4(3).廃棄物削減とリサイクル①

⇒認定基準書5ページ目



ごみを減らす

【必須項目】

■(23)食品廃棄物の発生抑制

食材の在庫管理、調理量の調整など

■(24)紙類・PETボトル・飲料缶・ガラスびんのリサイクル



【選択項目】

■(25)～(28)食品廃棄物について

- ✓発生量把握
- ✓客数1人あたり0.777kg以下
- ✓再生利用または熱回収
- ✓水切り、脱水、生ごみ処理機による減量化





1-4(3).廃棄物削減とリサイクル②

⇒認定基準書5ページ目

【選択項目】 つづき

■(29) 箸、コップ、おしぼり、ナプキンなどのいずれか
使い捨てではない or
使い捨てでも間伐材などの環境に配慮 or
使用後に回収・リサイクル



■(30) 食品の容器包装削減

リターナブルびん入り飲料、個包装しないバター、砂糖 など

■(31) 食材納入時に通い箱などを使用

■(32) 使用後のアメニティ、客室消耗品の客室外での
再使用またはリサイクル (タオル、トイレトペーパーなど)

SDGs
との関連

12 つくる責任
つかう責任





1-4(4).省エネルギー①

⇒認定基準書6ページ目



省エネ

【必須項目】

■(34)エネルギー使用量把握、前年度比較を行う

かつ年間エネルギー消費量が **2.8GJ/m²以下※**

※超える場合は2010年度比10%減でも可
(稼働率を考慮してもよい)

※省エネ法のベンチマーク制度の
Aクラス以上でも可





1-4(4).省エネルギー②

⇒認定基準書6ページ目

【必須項目】 つづき

- (35)不使用室の空調停止、消灯のルールを決めて実施



【選択項目】

- (36)熱源/照明/空調機器の定期的なメンテナンス(別表1)
- (37)室温の適正值を設定or
セントラル空調は 夏期に冷水出口温度を高め
冬期に温水出口温度を低め設定
- (38)国または地方公共団体のベンチマーク制度で
平均より上のクラス(Sクラスなど)に入る



1-4(4).省エネルギー③

⇒認定基準書6ページ目

【選択項目】 つづき

■(39)～(41)熱源・熱搬送

- ✓運用改善(別表2)
- ✓設備導入(別表3)
- ✓再生可能エネルギー使用(別表4)

■(42)～(44)空調・換気設備

- ✓建物の断熱化(別表5)
- ✓運用改善(別表6)
- ✓設備導入(別表7)



■(45)照明

- ✓ LEDランプor LED照明の導入

※導入割合は問いません。

SDGs との関係

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任

パリ協定



1-4(5).節水①

⇒ 認定基準書7ページ目



節水

【必須項目】

■ (47) 水の使用量把握、前年度比較



■ (48) 節水を、関係する従業員にわかりやすく示して実施





1-4(5).節水②

⇒認定基準書7ページ目

【選択項目】 (*基準書の脚注に具体例)

■(49)連泊客が寝装具・タオル類の交換有無を選択できる



■(50)給排水設備のメンテナンス

■(51)共用スペースまたはバックスペース

における節水機器*の導入

■(52)排水の浄化利用 (中水利用)

■(53)雨水の利用

(雨水貯留タンク、トイレ洗浄など)



SDGs
との関連



1-4(6).全般的な環境配慮①

⇒認定基準書8ページ目



エコな
施設運営

【必須項目】

■(55)環境法規を順守していること。



【選択項目】

■(56)(57)環境マネジメントの体制



✓環境方針の設定

→環境目標および計画の実施状況の確認

→継続的に改善

✓環境活動の従業員への周知、
業務改善の指導





1-4(6).全般的な環境配慮②

⇒認定基準書8ページ目

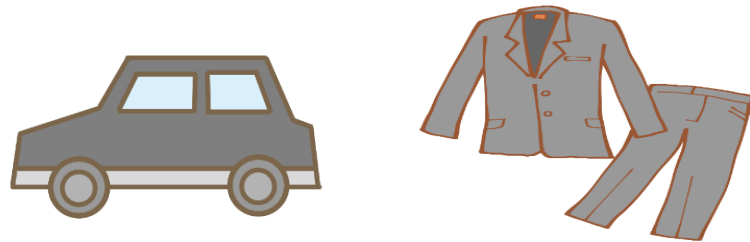
【選択項目】 (*基準書の脚注に具体例)

■(58)～(60)地域、他組織への貢献

- ✓ 周辺地域の清掃活動
- ✓ 緑地や生き物の生息地整備
- ✓ 他団体が行う環境活動への協力または寄付(募金)



■(61)エコマーク商品などのエコ製品*の使用 事務所やバックスペースで使用する消耗品 or 耐久消費財・サービス





1-4(6).全般的な環境配慮③

⇒認定基準書8ページ目

【選択項目】

■(62)化学製品

エアゾール製品 塗料・接着剤
⇒シックハウスなどの原因となる
VOCが使用されている

- ✓低VOC(揮発性有機化合物)製品の使用 or
- ✓環境に配慮された原料を使用した洗剤類の使用

パーム油を原料とする場合、
森林破壊などの問題

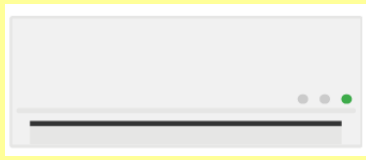
■(63)ノンフロンor地球温暖化係数の低いフロン製品導入

2015年 フロン排出抑制法施行

定期点検によるフロン類の漏えい防止、漏えい量の年次報告・公表を義務付け

宿泊施設で使用されているフロン製品

業務用冷蔵庫、客室の小型冷蔵庫、
エアコン



SDGsとの関連

11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	15 陸の豊かさも守ろう	17 パートナーシップで目標を達成しよう



1-5. 「その他」の項目について

⇒認定基準書3ページ目以降

- 施設の新旧、業態、規模等により環境配慮の取り組み内容、レベルは様々
- 基準項目に挙げられていない各社独自の取り組みも評価できるようにした



「その他」項目として、基準項目にあげられていない取り組みを、評価カテゴリー毎に最大3つまで申請が可能



1-6. 計画段階での設備の選択項目の適合について

⇒認定基準書3ページ目以降

■ 省エネ・節水の設備導入にはコストがかかる



設備を一度に更新するには、営業停止などの対応が必要となる場合がある

■ 計画的・段階的に導入していくことを推奨・評価



設備の導入に関する下記の選択項目では、
具体的な**導入計画(時期、数量、種類など)**がある場合、
導入済みと同等のポイントを付与する

4-2(17)、4-4(40)(41)(42)(44)(45)、4-5(51)、4-6(63)



1-7.エコマークの表示について

⇒認定基準書10ページ目

- 従来のロゴだけでは、具体的にどのような点で環境に配慮しているのかまでは伝えきれない。



どのような取り組みを
行っているかを視覚的に表す
絵柄(ピクトグラム)を導入

様々な媒体でアピール

- ・ポスター等掲示物
- ・ウェブサイト
- ・CSR、環境報告書 など



日本語、日英、英語表記の3種を用意



1-8.エコマークの表示例

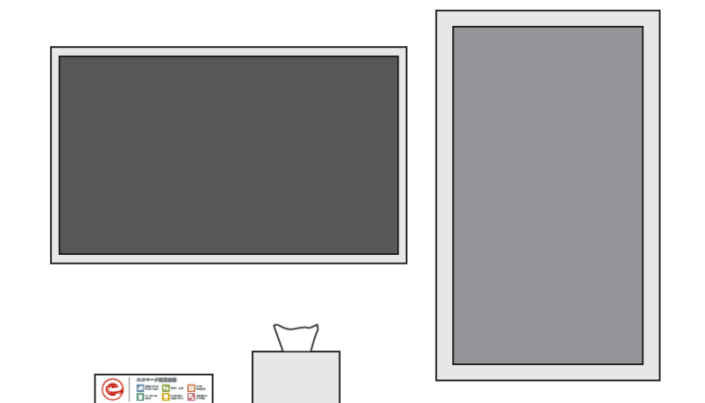
【フロント】

フロントデスクの上に表示する。
チェックイン・チェックアウト手続きの
ちょっとした待ち時間に、眺められる
位置に配置する。



【客室】

客室内の机やテーブルの上に表示する。
あるいはリーフレットを作成し、引き出し
の中の案内冊子の上に置く。
延泊時のベッドのシーツ交換の札などに
表示する。

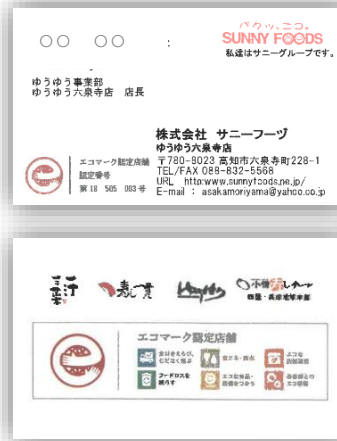




1-9.エコマーク認定飲食店の表示事例



名鉄レストラン



サニーフーツ



モスバーガー



デニーズ



大戸屋



2-1. エコマーク審査の流れ

STEP1

エコマーク事務局にご相談 (無料)

☎ TEL : **03-5643-6253**

月曜日～金曜日 (祝日・年末年始を除く) 午前9時30分～午後5時30分

✉ E-mail : info@ecomark.jp

STEP2

審査のお申し込み

審査料 : 40,000円 (消費税別)

STEP3

エコマーク事務局による現地確認

(複数施設を一括して申込む場合には、本社及び代表施設を現地確認)

STEP4

審査委員会による認定審査

認定の場合

STEP5

エコマークの表示開始

年間使用料 :

1～9施設 1施設目 : 30,000円 + 2施設目以降 : 1施設毎に20,000円加算 /

10～99施設 : 200,000円 / 100～299施設 : 300,000円 /

300～499施設 : 500,000円 / 500施設超 : 1,000,000円 (消費税別)

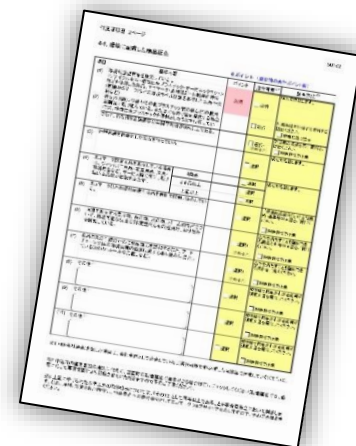




2-2. 証明方法について

■ 証明書類の提出

- ✓ 付属証明書(チェックリスト)の提出
- ✓ 基準を満たすことを証明できる資料
写真、説明文書などの提出



■ 現地確認

- ✓ 審査時に現地確認を実施する。
(現地で確認できる項目については
書類提出を省略)





2-3.複数の施設を申し込むケース

- 共通の運営手法を持つ複数施設をまとめて申し込むことが可能となった。



- 共通の運営手法で申込施設が全て達成されているかを確認する。(ただし、一部施設で適用できない特別な理由がある場合には考慮できる)

- ✓ 申し込みの対象となる**店舗の範囲**は申込者が予め設定する。
- ✓ **共通して**実施している取り組みのみ評価(ポイント付与)する。
- ✓ 申込者自身が**主体的に**取り組んでいるかどうかで判断

2-4. エコマーク「ホテル・旅館」の申請・維持費用

エコマークの申請・維持費用は、初年度：①+②、二年目以降：②です。

①エコマーク認定審査料： 40,000円/件(別途消費税)

注) 審査料は、初回の申請時の審査費用です。現地確認の費用(旅費等)が含まれる。
共通の運営手法を持つ複数施設を同時申請する場合も、1件分の審査料が適用される。

②エコマーク使用料(ライセンス料) 【年間・1事業者あたり】

認定施設数	使用料(別途消費税)
1～9施設	1施設目30,000円 2施設目以降:30,000円+1施設毎に20,000円加算
10～99施設	200,000円
100～299施設	300,000円
300～499施設	500,000円
500施設超	1,000,000円

【参考】 ISO14001の場合(50人規模)

初年度： 120万円～ +旅費

2年目以降： 40万円～ +旅費

更新審査(3年目)： 80万円～ +旅費

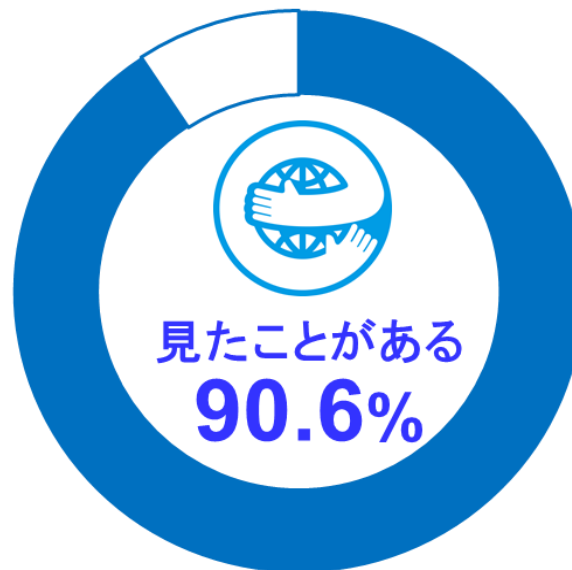
http://www.matec-inc.co.jp/topics/e_topics/20080212_1.html



3-1.取得メリット(認知度の高さ)

① 宿泊施設の“顔”を エコマークでアピール

環境に配慮した店舗であることを認知度が高いエコマークでお客さまにわかりやすく発信できます。



インターネット調査(平成27年3月)
対象者:全国の20歳以上70歳未満の男女5274人

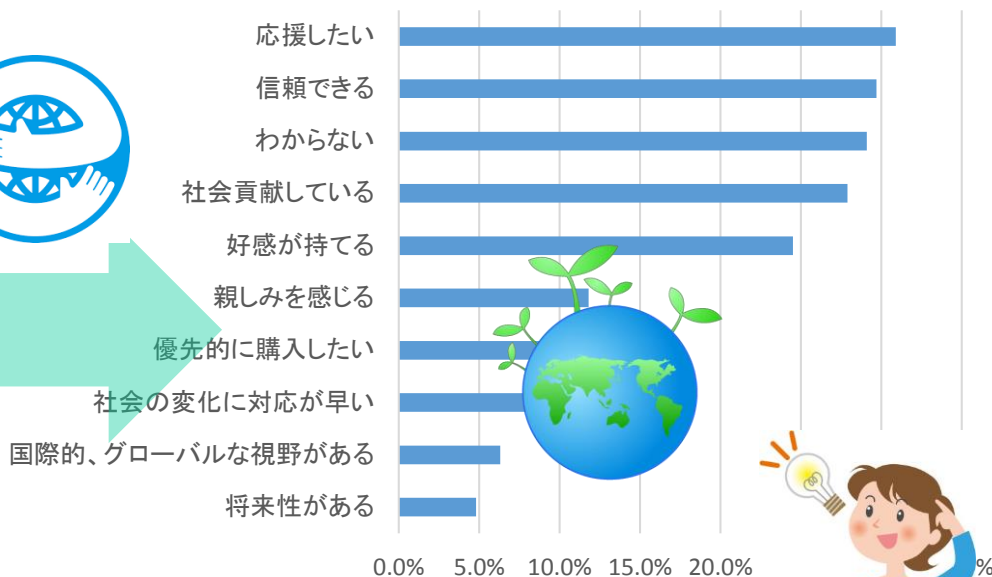
- 全体の**約9割**がエコマークを「見たことがある」と回答
- 環境ラベルの中で最も高い水準であり、**老若男女問わず知っている**という強みを広報展開に生かすことができる。



3-2.取得メリット(わかりやすさ)

②お客さまとの コミュニケーション

客室内の案内パンフレットなどにもエコマークを表示できます。お客さまへの省エネや節水のメッセージを、エコマークが後押しします。



平成27年 エコマーク認知度調査より

- 「環境配慮」という難しいテーマを、「エコマーク」という象徴に変えることで、**わかりやすくアピール**できる。
- コミュニケーションを深めることで、今までになかった**「地域との連携」**、**「新しい取引先や事業パートナーの獲得」**、**「新たな事業の創出」**などを生むことにつながる。



3-3.取得メリット(信頼性の高さ)

③企業イメージアップ

エコマークでは、公平性、透明性のもと、第三者による厳格な審査が行われます。第三者認証という信頼性の高さから、企業イメージが向上します。



国内唯一のタイプ I
ISO14024 環境ラベル

- 多くの人に「この会社は信用できる」という印象を与えることができ、企業にとってプラスの効果をもたらす。
- 企業の評判や信頼性は、ホテル・旅館ブランドの“付加価値”となり、消費者の共感を呼ぶ。
- 企業イメージの向上は、多様性に富んだ人材確保にもつながる。



3-4.取得メリット(社会貢献性)

④ 国際社会の目標にも 貢献

企業活動における社会的責任の一つである、地球温暖化防止に貢献できます。SDGs*の目標の“持続可能な消費と生産”への取組みにもつながります。



- **社会課題への対応は、経営リスクの回避とともに社会への貢献や地域での信頼獲得にもつながる。**
- **今後、パリ協定やSDGsへの対応がビジネスにおける取引条件になる可能性もあり、持続可能な経営を行う戦略として活用できる。**



3-5.取得メリット(コスト削減)

⑤エコマーク取得に 取り組んだ結果、 省エネ・廃棄物削減 =利益アップ

省エネや廃棄物削減はコストダウンに直結しています。売上アップで利益を上げるだけでなく、コストダウンで利益を上げることもできます。



- 環境課題や社会課題の**解決を通して儲ける**、環境課題や社会課題に**配慮していないと儲けられない**、そのような時代が来ようとしている。
- 投資の世界でも、**投資の条件**として、収益だけでなく、SDGsに取り組んでいるかどうか**もみられる時代**になってきている。



3-6.事務局による広告・宣伝(1)

■自治体主催イベントへの参加



大館市エコフェア



環境フェスティバルふくおか



なかのエコフェア



まつやま環境フェア

■環境施設での展示



おおさか
ATCグリーンエコプラザ



東京都中央区
環境情報センター



東京都足立区リサイクルセンター
あだち再生館



3-6.事務局による広告・宣伝(2)

日本最大級の環境イベント「エコプロ」への出展



■エコプロ全体の来場者数

2018年
 12月6日(木) 天気: 晴れ 54,071人
 12月7日(金) 天気: 曇り 61,014人
 12月8日(土) 天気: 晴れ 47,132人
 総来場者数: 162,217人

■エコマーク事務局ブースの来場者数

(クイズ回答者ベース)
 1日目: 262名
 2日目: 363名
 3日目: 833名
 合計: 1,458名
 ※ほかに、クイズに参加しない方も多数あり



<参考>エコマーク認定取得者の声

「飲食店」の認定を取得した事業者(または取得を検討している事業者)からは、エコマークの取得を決断した動機として以下のような声が聞かれた。

- ✓ 省エネなど様々な環境対応に取り組んでいるが、お客様に伝えにくい。会社の取組みが**第三者の評価**を受けていることをアピールできる。
- ✓ **子どもにも認知**されているエコマークを店舗に表示することで、環境への取組みがPRできる。
- ✓ オリンピックを機に、**訪日外国人**に共感してもらえる。
- ✓ ISO14001はBtoBに有効だが、エコマークは**親しみやすい**ので一般消費者へのPRに活用しやすい。
- ✓ エコマーク取得による企業としての**信頼性・ブランド価値の向上**が狙い。
- ✓ これまでスタッフの環境意識を高めることに苦心していたが、エコマークを旗印に**スタッフの環境配慮への目的意識・取組意欲**を高められる。
- ✓ 今後、業界で**エコマーク認定がスタンダード**になる可能性を感じている。
- ✓ 環境配慮の面で先行し、**業界をけん引**していきたい。



4. エコマーク事務局からのご提案

SDGs、パリ協定、海洋プラスチック汚染など、ホテル・旅館の事業者も環境を中心とした**持続可能性への取組が求められる時代**となっています。

エコマークは、それらの観点を含むトータルでの環境配慮を第三者が評価する仕組みです。

エコマークは、**環境経営を統合的に進めるツール**としてだけでなく、**従業員の取組意欲の向上**、国内外の**宿泊者・利用者とのコミュニケーションツール**としても活用可能です。

是非、エコマークの活用をご検討ください。



ご清聴ありがとうございました



公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F
電話:03-5643-6253 FAX:03-5643-6257
E-mail:info@ecomark.jp
<https://www.ecomark.jp/>